

2015年度

スウェーデン高齢者住宅視察 募集のご案内

期 間：2015年11月15日（日）～11月22日（日）（6泊8日）

訪問先：スウェーデン（カールスハムン、ストックホルム、ナッキャ）

旅行代金：¥475,000（1人部屋）

※ 上記旅行金には「燃油特別付加運賃」は含まれておりません。

（ご参考：8月19日現在の燃油特別付加運賃は¥22,360です。）



旅行企画：一般財団法人 高齢者住宅財団
旅行取扱：近畿日本ツーリスト株式会社

ごあいさつ

当財団では毎年、海外高齢者住宅視察を企画しておりますが、今年度は、スウェーデンを訪問します。

福祉の先進国として知られるスウェーデンでは、1950年代から在宅主義を大きな政治目標として掲げ、高齢者が介護度に応じて住む場所を移動するということはなく、死ぬまで住み続けられる制度を整備してきました。従来の施設は「特別な住居」に統合され、24時間の介護住宅と自立できるサービスハウスによるきめ細かな対応が行われています。

今回の視察では、スウェーデンに長く在住し、スウェーデンについて最新の情報を日本に発信してきた奥村芳孝氏のコーディネートにより、Karlshamn（カールスハムン市）、Nacka（ナッキヤ市）の2つのコミューン（我が国の市町村）を訪問し、その現場で、最新のスウェーデンの高齢者ケア及び住宅事情を体感していただけるプログラムとなっております。

民営化に揺れたスウェーデンが政権交代でどのように動いているかなどの最新動向も含めて、これからの日本の高齢者の住まいとケアを考える上で、多くの有益な情報が得られるものと考えております。

是非とも本企画への参加をご検討いただきたくお願い申し上げます。

【コーディネーター】 奥村芳孝（おくむら よしたか）

奈良県出身。1971年スウェーデンに渡る。ストックホルム大学社会科学部卒業後、1990年までストックホルム市に勤務。1990年OKUMURA COMMUNICATIONS社を設立、2009年OKUMURA CONSULTING社に改名。現在、福祉、社会政策を中心にリサーチ、著述、講演、通訳を行う。

著作として、『スウェーデン』旬報社「世界の社会福祉年鑑」、『スウェーデンの高齢者・障害者ケア入門』（筒井書房）、『スウェーデンの高齢者ケア戦略』（筒井書房）など。

<海外社会保障研究 2008年164号：特集・世界の高齢者住宅とケア政策>
「スウェーデンの高齢者住宅とケア政策」

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/18879304.pdf>

【団長】 高橋 紘士（たかはし ひろし）

高齢者住宅財団理事長。立教大学教授、国際医療福祉大学大学院医療福祉学分野教授などを経て現職。

有料老人ホーム協会理事、高齢者住宅推進機構理事、厚生労働省政策評価に関する有識者会議座長、東京都社会福祉審議会会長などを兼務。厚労省地域包括ケア研究会などの他、国交省、総務省等で各種委員会委員歴任。

著作として、「地域包括ケアシステム」「地域包括支援センター実務必携」（編著、以上オーム社）、「地域包括ケアシステム」（分担執筆、慶応大学出版会）、「高齢者の権利擁護システム」（共編、勁草書房）「介護保険のマネジメントシステム」（共著、医学書院）など。

日程表(予定)

2015年11月15日(日)～11月22日(日) (6泊8日)

	月 日	発着地/滞在地名	時間	交通	行 動	食事
1	11月15日 (日)	成田空港 東京(成田)発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発 カールスハムン着	10:30 12:30 16:05	SK984 専用バス	成田空港に集合 空路、コペンハーゲンへ(所要時間:11時間35分) (時差-8時間) 専用車にてカールスハムンへ 到着後、ホテルへ ホテルにて、奥村氏によるレクチャー ＜カールスハムン泊＞	朝:× 昼:機内 夕:○
2	11月16日 (月)	カールスハムン	午前 午後	専用バス	カールスハムン市レクチャー、特別な住居 ●カールスハムン市レクチャー 高齢者住宅・高齢者ケア政策・一般住居におけるケアと 訪問介護・訪問看護師の役割・認知症P J等 ●カールスハムン市の特別な住居訪問 ＜カールスハムン泊＞	朝:ホテル 昼:○ 夕:○
3	11月17日 (火)	カールスハムン	午前 午後	専用バス	住宅庁、シニア住宅 ●カールスクローナ市住宅庁訪問 ●カールスハムン市のシニア住宅訪問 ＜カールスハムン泊＞	朝:ホテル 昼:○ 夕:○
4	11月18日 (水)	カールスクローナ発 ストックホルム着	朝 午後	専用バス SK1132 専用バス	社会庁・社会省 ロネビー空港へ 空路、ストックホルムへ 到着後、専用車にて市内へ ●社会庁または社会省訪問 ＜ストックホルム泊＞	朝:ホテル 昼:○ 夕:○
5	11月19日 (木)	ストックホルム	午前 午後	専用バス	ナッキヤ市レクチャー、特別な住居・シニア住宅 ●ナッキヤ市レクチャー 高齢者住宅・高齢者ケア政策・認知症看護師の役割など ●特別な住居・シニア住宅訪問 ＜ストックホルム泊＞	朝:ホテル 昼:○ 夕:○
6	11月20日 (金)	ストックホルム	午前 午後	専用バス	シニア住宅、安心住居視察 ●シニア住宅 ●ストックホルム市の安心住居訪問 ＜ストックホルム泊＞	朝:ホテル 昼:○ 夕:○
7	11月21日 (土)	ストックホルム発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発	午前 午後	専用バス SK1423 SK983	ストックホルム市内視察 視察後、ストックホルム空港へ 空路、乗継便にて成田へ ＜機中泊＞	朝:ホテル 昼:× 夕:機内
8	11月22日 (日)	成田空港着	10:40		(時差+8時間)着後、入国審査、荷物受取後解散となります。	朝:機内

※講師や現地の事情等により、視察施設や講義内容等が変更になる場合がございます。



スウェーデン基本情報

【人口】約975万人（2014年12月、スウェーデン統計庁）

【面積】約45万平方キロメートル（日本の約1.2倍）

【言語】スウェーデン語

【宗教】福音ルーテル派が多数

【政体】立憲君主制

【主要産業】機械工業（含：自動車）、化学工業、林業、IT

【通貨】クローナ 1クローナ=約14.1円（2015年4月現在）

月	最低	最高	月	最低	最高
1	-2	1	7	15	23
2	-3	1	8	14	22
3	-2	4	9	10	17
4	3	11	10	6	10
5	8	16	11	2	5
6	12	20	12	-1	1

ストックホルムの月別平均最低・最高気温（℃）

【ストックホルム】

スウェーデンの首都であるストックホルムは、スカンジナビア諸国で最多の人口を誇る街。古くから北欧の首都を自認し、政治や経済、文化活動の中心地となってきた。街の始まりは、1252年に摂政ピリエールが、スタッツホルメン島に城砦を築いたこと。それはまるで湖やバルト海の出入口の関所のように、軍事的にも海運業などの経済的にも重要な位置を占めていたという。14の島からなるこの街は、市の面積の13%を水面が占めており、市の中心部にもリッター湾や運河をはじめとする水部が入り組んでいる。市民たちはこの美しい光景を愛し、この町並みは北欧のヴェニスと称えられるほど。また、治安のよさもすばらしく、交通マナーのよさも特筆もの。毎年12月10日には、平和賞を除くノーベル賞の授賞式が行われることでも知られている。

【カールスハムン】カールスクローナ市から西に50キロ、人口3万2千人、県内において、特別な住居における満足度が最高。特別な住居、シニア住宅、安心住居が存在する。訪問看護は市の役割。

【ナツキャ】ストックホルム近郊の市、人口9万6千人、県内で特別な住居における満足度は2番目、特別な住居、シニア住宅が存在する。訪問看護はまだ県が行っている。民営化が進んでいる。



視察先等の概要

1日目 11月15日(日)

午前中に成田空港を出発し、夕方コペンハーゲンに到着します。時差は-8時間です。
コペンハーゲン空港からカールスハムンのホテルへバスで移動します。

●オリエンテーション

「スウェーデンの高齢者住宅事情の概観」(奥村氏)

2日目 11月16日(月)

●カールスハムン市レクチャー

高齢者住宅・高齢者ケア政策・一般住居におけるケアと訪問介護・訪問看護師の役割・認知症PJ等

●カールスハムン市の特別な住居視察

3日目 11月17日(火)

●カールスクローナ市住宅庁視察

●カールスハムン市のシニア住宅視察

4日目 11月18日(水)

午前中にロネビー空港を出発し、ストックホルムへ移動します。

●社会庁または社会省を視察

5日目 11月19日(木)

●ナッキヤ市レクチャー

高齢者住宅・高齢者ケア政策・認知症看護師の役割など

●特別な住居・シニア住宅視察

6日目 11月20日(金)

●シニア住宅視察

●ストックホルム市の安心住居視察

7日目 11月21日(土)

午前に空港へ向かい、お昼にストックホルムを出発します。

8日目 11月22日(日)

午前、成田空港に到着します。

※講師や現地の事情等により、視察施設や講義内容等が変更になる場合がございます。

社会サービス法（1982年施行）

- ・ コミュニンの福祉施策の基本法
- ・ 基本原則は、「ノーマライゼーション」「自己決定」「人間の尊厳を守る介護」

エーデル改革（1992年）

- ・ 保健医療と社会福祉サービスの統合を目的とした改革。
コミューンが一元化して医療も含めた高齢者ケアを担当（短期医療である老年科は含まない）

スウェーデンにおける高齢者向け住宅の種類

特別な住宅（Särskilda boendeformer；サーシルダ・ボーエンデフォルメル）

特別な住宅とは、介護サービスの供給が義務付けられた住宅である。

認知症高齢者や長期療養を必要とする高齢者のグループホーム、ナーシングホーム、老人ホーム、一部サービスハウス[※]等を一括したカテゴリーであり、特別な「住宅」と呼称することにより、一般住居と区別されている。

特別な住宅への入居に際しては、市（コミューン）の審査が必要となる。また、その供給責任は市に委ねられており、どのタイプの住宅を特別な住宅の枠に含めるかも市の裁量に委ねられている。

※サービスハウス：特別な住居として入居は市によって決定され、介護などはホームヘルプとして提供される。

シニア住宅（seniorboende；セニオール・ボーエンデ）

主に55歳以上の健常者を対象とした協同組合住居（一部賃貸形式もある）。入居時に介護が必要でない人という条件や年齢制限（70歳まで）を設けているところが多い。

1929年に初めて建設され、特に1980年代後半から民営高齢者住宅として建設されている。

社会サービス法の「特別な住居」の定義には含まれず、一般住宅と同様の扱いのため入居決定に市は関与しない。ただし、一般住宅同様、ホームヘルプなどが必要になれば、市の福祉事務所に申し込む。

安心住居（trygghetsboende；ツリュグヘート・ボーエンデ）

対象は70歳以上で、介護住居に入居するほど介護度は高くないが在宅に住み続けられない高齢者である。2009年10月から5年間（2014年度まで）、安心住居に対する建設補助制度が導入されていた。

補助の条件は、70歳以上の高齢者の住まいとすることや、食堂、趣味活動、余暇の活動の場が設けられ、アシスタントが勤務することとされている。なお、安心住宅には、介護職員は勤務しておらず、介護や看護が必要となれば、一般住宅と同じく市にホームヘルプや在宅看護を申請する。